

閉会挨拶

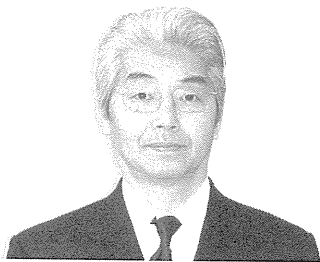
中村（年）

パネリストの諸先生方、コーディネーターをお務めいただいた中村昭雄先生ありがとうございました。本日のシンポジウムはこれで終わりとなります。閉会にあたり、大東文化大学地域連携センター所長本間修よりご挨拶申し上げます。

本間修・大東文化大学地域連携センター所長

パネリストの先生方、コーディネーターの先生、どうもお疲れさまでした。ご来場の皆さま、どうもお疲れさまでした。

まちづくりと危機管理ということで、我々はその問題について日ごろから考え、また皆さま一人ひとりがいざというときにどういうふうなことをしたらいいかということ、たぶん考えていらっしゃるだろうと思います。実際には青山先生もおっしゃったように、どう行動できるかということが勝負なので、その点のところをいくら頭で考えていても、準備が足りない。いざとなれば、マスメディアを通じて得られる情報が絶たれるというような状況が当然、予想されます。そうしますと、流言、噂、拳句の果てには、山が飛ぶというような極端な話さえ流れるような状況も当然ありうるわけです。先ほどもお話があったように、公助の部分の情報が我々一人ひとりに正しく伝わらなくなったときに、はたして正しく行動できるのかという疑問に対して、心構えと予行演習等の準備が重要です。実際、そういうときに、我々はどのようなルートで、どのような行動をとるのかということ、イメージトレーニングなり、何なりをして、実際に行動してみるということも、これから必要



ではないかなというふうに思っております。

まさに、情報が大事だというお話は先生方からも重ねてご指摘があったのですけれども、本当にそれが正しく伝えられるのかどうかということが我々にとって一番不安の種だと思います。自治体組織、あるいは個々が、普段から人間関係を密にしていれば、正しい情報が比較的伝わりやすい、たとえばマスメディアが仮に途絶えたとしても、伝わりやすいという状況があるかもしれませんけれども、それが、都会では非常に難しいというような土井先生のお話もございました。私一人、不安がっても仕方がないのですけれども、そういったこともありまして、普段から一人ひとりが、鈴木先生がおっしゃったように、仲間をつくって、お互いに正しい情報や、公助のほうからの情報をきちんと受け取れるようにしておくことが大切でしょう。また公助を担当されている方々、板橋区の場合には区役所の方々に是非、どういうルートで、どういうふうに区民に正しい情報を伝えるのかを、具体的にトレーニングをしていただければありがたい。たぶん、例えば、仮にラジオがまだ使えたとしても、ラジオというのはおそらく狭い範囲としても東京都全体の情報しか流れないと思うのです。その地域、その地域独特の情報というものを、区民の方々は求めているんじゃないと思うのです。そういうものを是非、どういう形で伝えるかということを検討していただきたい。その点は、是非お願いしたいなと思っております。

最後に、今日ご来場の皆さま方も、まだ質問が足りないとか、こういうことが不安だとか、こういうことは自分たちでできるのだということを、今日お帰りになって是非考えていただいて、それぞれ区役所の方々にお願いすること、市民同士のコミュニティでできることは何なんだろうか、自分でできることは何なのだろうかということ、整理していただければ、今日のパネルディスカッションは非常に有効な会だったと思えます。

本日はどうも、ありがとうございました。お疲れさまでした。

中村（年）

所定の時間を若干残しておりますが、本日の地域デザインフォーラム・シンポジウムをこれにて閉会といたします。

なお、この後、交流の場を設けております。地域デザインフォーラムの関係者、板橋区職員の皆さま、本日まで参加の地域の皆さま、お時間の都合のつく方は、交流会場のグリーンスポットへお移りください。又と無い機会ですから、一層密なるコミュニケーションあるいは交流を図っていただければ幸いです。

本日は、長時間にわたり、本フォーラムにお付き合いいただきまして、本当にありがとうございました。今後ともよろしく願い申し上げます。